



武田 建 教授

武田 建教授略歴・主要業績

— 略 歴 —

学 歴

1950年3月	関西学院高等部卒業
1950年4月～1952年3月	関西学院短期大学英文科 卒業
1952年4月～1954年3月	関西学院大学文学部社会事業学科 卒業（文学士）
1954年4月～1956年3月	関西学院大学大学院文学研究科教育学専攻 修了（文学修士）
1956年9月～1958年8月	トロント大学大学院社会福祉専攻 卒業（M.S.W）
1958年9月～1959年8月	メリル・パーマー研究所 臨床心理インターン
1959年9月～1960年6月	コーネル大学大学院児童心理博士課程
1960年9月～1962年6月	ミシガン州立大学大学院カウンセリング心理博士課程 卒業（Ph.D）
1966年9月～1967年8月	メリル・パーマー研究所ポスト・ドクトラル・フェロー

職 歴

1954年4月～1956年3月	関西学院大学文学部社会事業学科助手補
1959年9月～1960年6月	コーネル大学心理学科助手
1960年4月	関西学院大学社会学部専任講師として文部省へ申請
1960年9月～1961年6月	ミシガン州立大学カウンセリング心理学科助手
1961年9月～1962年6月	ミシガン州立大学カウンセリング・センター講師
1962年10月～1965年3月	関西学院大学社会学部専任講師
1965年4月～1972年3月	関西学院大学社会学部助教授
1972年4月～現在	関西学院大学社会学部教授
1974年4月～現在	関西学院大学大学院社会学研究科前期課程指導教授
1977年9月～1978年5月	ミシガン大学フルブライト招聘客員研究員
1977年12月	文部省大学設置審査会で社会福祉学大学院博士課程後期課程指導教授として認可
1978年4月～現在	関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程指導教授
1982年4月～1985年12月	関西学院大学社会学部長
1985年9月～1985年11月	関西学院大学学長事務取扱
1985年11月～1989年3月	関西学院大学学長
1992年4月～現在	学校法人関西学院理事長

— 学会及び社会における活動等 —

1991年4月～現在	兵庫県スポーツ振興審議会委員
1991年6月～現在	神戸市福祉審議会委員
1991年8月～1996年	文部省大学設置・学校法人審議会教員審査専門部会委員（大学設置分科会）
1993年2月～現在	（社）日本私立大学連盟理事・常務理事・企画委員・私学助成活動委員
1994年 ～現在	日本生命財団 青少年健全育成活動審査委員
1994年 ～1996年	旭硝子財団 人文・社会科学選考委員
1994年8月～現在	文部省学校法人運営調査委員
1994年 ～現在	私立大学退職金財団 評議員
1994年 ～現在	日本私立大学連合会 委員
1994年 ～現在	私学研修福祉会 役員・評議員
1994年 ～現在	兵庫県私学振興協会 役員・評議員
1994年 ～現在	兵庫県スポーツ振興審議会 委員

1994年	～現在	神戸市児童福祉審議会 委員
1995年	～現在	ローランド財団 理事
1995年	～1999年3月	日本生命財団 評議員
1993年12月	～現在	文部省大学設置・学校法人審議会委員（学校法人分科会）
1997年10月	～現在	文部省大学審議会委員
1999年4月	～現在	日本生命財団理事
		日本社会福祉学会会員
		日本心理学会会員
		日本心理臨床学会会員
		日本行動療法学会会員

— 著 書 —

カウンセリングの理論と方法	理想社	1967年
人格発達論	ナカニシヤ出版	1972年
グループワークとカウンセリング	日本 YMCA 同盟出版	1973年
親と子の臨床心理	創元社	1975年
しつけ上手の心理学	大和書房	1980年
新しいグループワーク（共著者 大利一雄）	日本 YMCA 同盟出版	1980年
リーダーシップの条件	大和書房	1981年
親と子の行動ケースワーク（共著者 立木茂雄）	ミネルヴァ書房	1981年
コーチングの心理学（共著者 柳 敏晴）	日本 YMCA 同盟出版	1982年
保育カウンセリング（共著者 白石大介）	創元社	1983年
リーダーシップを身につける	日本生産性本部	1983年
カウンセラー入門	誠信書房	1984年
コーチング	誠信書房	1985年
心を育てる	誠信書房	1985年
臨床ケースワーク（荒川義子との共編） [担当部分：第3章面接課程（面接技法）第7章行動ケースワーク第11章スーパービジョン]	川島書店	1986年
カウンセリングの進め方	誠信書房	1992年
最新・コーチング読本 —コーチの心理学—	ベースボールマガジン社	1997年

— 論 文 —

Accuracy of Sociometric Perception and its Relation to the Dyadic Relationships	博士論文 ミシガン州立大学	1962年6月
米国の青少年対策	兵庫教育 兵庫県教育委員会	1963年7月
ソシオメトリック知覚と研究の展望	『社会学部紀要』第7号 関西学院大学社会学部研究会	1963年8月
Sociometric Perception	K. G. Ann Studies 関西学院大学	1963年12月
Morita Therapy	JL of Religion and Health, vol. 3 No. 4	1964年10月
ソシオメトリック知覚と対人感情の関係	『社会学部紀要』第9, 10号 関西学院大学社会学部研究会	1964年11月
米国における臨床心理学者の資格と教育	『臨床心理』vol. 3 No. 2 臨床心理学会	1964年

C.R.Rogers のパーソナリティー理論	『社会学部紀要』第11号 関西学院大学社会学部研究会	1965年 8月
社会事業調査の問題点	『社会学部紀要』第12号 関西学院大学社会学部研究会	1965年12月
Sociometric Perception and the Dyadic Relationship	K. G. Ann Studies 関西学院大学	1965年12月
アメリカにおける治療キャンプの歩み	大阪青少年対策	1966年 3月
精神医学ソーシャルワーカー教育の問題点	精神医学ソーシャルワーク vol. 2 No. 1	1966年
心理学的診断のあり方	『臨床心理学の進歩』 誠信書房	1966年10月
学校担任の家庭への働きかけ	『教育心理』15巻 3号 日本文化科学社	1967年 2月
Field Work and Placement Service in Social Work Education	Glimpses of Social Work in Japan	1968年
行動療法の理論と方法	『青少年問題研究』 大阪府	1969年 3月
行動理論のケースワークへの応用	『社会学部紀要』第22号 関西学院大学社会学部研究会	1971年 3月
面接場面設定に関する諸問題	『心理判定における面接の意味』 厚生省	1971年10月
青少年指導	『少年補導』 大阪少年補導協会	1973年11月
行動療法の初回面接	『社会学部紀要』第30号 関西学院大学社会学部研究会	1975年 2月
社会福祉実習をめぐる諸問題	『社会福祉研究』 鉄道弘済会	1977年 4月
行動療法：その技法以外の諸問題	『社会学部紀要』第40号 関西学院大学社会学部研究会	1980年
行動ケースワーク I	『ソーシャルワーク研究』第 6 巻 1 号 相川書房	1980年 7月
行動ケースワーク II	『ソーシャルワーク研究』第 6 巻 2 号 相川書房	1980年 8月
行動ケースワーク III	『ソーシャルワーク研究』第 6 巻 3 号 相川書房	1980年12月
行動ケースワーク IV	『ソーシャルワーク研究』第 6 巻 4 号 相川書房	1981年 3月
行動ケースワーク V	『ソーシャルワーク研究』第 7 巻 1 号 相川書房	1981年 6月
行動ケースワーク VI	『ソーシャルワーク研究』第 7 巻 2 号 相川書房	1981年 9月
行動ケースワーク VII	『ソーシャルワーク研究』第 7 巻 3 号 相川書房	1981年11月
行動ケースワーク VIII	『ソーシャルワーク研究』第 7 巻 4 号 相川書房	1982年 3月
心理学的コーチング	『理想』第611号 理想社	1984年 4月
「事例：学校恐怖症」へのコメント行動療法の観点から	『こころの科学』第16号 日本評論社	1987年11月
行動療法における治療関係：転移をめぐる諸問題	『社会学部紀要』第63号 関西学院大学社会学部研究会	1991年 3月

リラクセーションとイメージの利用	『コーチング・クリニック』 ベースボールマガジン社	1991年6月
「コーチングの心理学」	『体育科教育』第42巻14号 大修館書店	1994年12月
「カウンセリングの知識と手法1～12」	『コーチング・クリニック』 第10巻1号～第10巻12号 ベースボールマガジン社	1996年1月～ 1996年12月
「カウンセラー、教員、コーチ」	『大学時報』45巻250号 日本私立大学連盟	1996年9月
「学生相談にみるキャンパスライフの変化」	『IDE 現代の高等教育』第386号 民主教育協会	1997年4月
「カウンセラーの資格と大学教育」	『大学時報』第47巻258号 日本私立大学連盟	1998年1月

— 翻 訳 —

フランクルの心理学 (D. トウイーディー著)	小峯書店	1965年
キリスト教とカウンセリング (P. E. ジョンソン著)	日本 YMCA 同盟出版	1968年
嫌悪刺激による行動療法 (S. ラックマン他著)	岩崎学術出版 (共訳 今田 寛)	1971年
勇気ある死 (J. モリス著)	日本 YMCA 同盟出版 (共訳 武田とし子)	1975年

— 分担執筆 —

品川 不二郎編 第五巻 専門機関の利用 第三編 方法論 第2章 専門機関による環境調整	『学校教育相談』 国土社	1969年
松永 一郎他編 第4章 精神衛生の精神分析的説明 第5章 精神衛生の社会学的説明	『人間理解の心理学』 峯書房	1972年
稲村 松雄他編 小学館ランダムハウス英和大辞典	『ランダムハウス英和大辞典』 小学館	1973年
異常行動研究会編集 第4章 市場に一人で行けぬ不安神経症患者への系統的脱感作法の適用	『脱感作療法ウォルピと行動療法』 誠信書房	1975年
塚本 哲他監修 社会福祉事業辞典	『社会福祉事業辞典』 ミネルヴァ書房	1977年
佐治 守夫他編集 精神分析と他の心理療法との関係	『心理療法の基礎知識』 有斐閣	1977年
福田 垂穂他編 グループワーク教室	『グループワーク教室』 有斐閣	1979年
飯田 眞他編 第9章 インポテンツの症例分析	『精神の科学5』 岩波書店	1983年
木下 富雄編 現代かしこさ考 スポーツにおけるかしこさ	別冊『発達』 ミネルヴァ書房	1984年
河合 隼雄編 第4章 しつけの心理学	『子どもと生きる』 創元社	1985年

- | | | |
|---|----------------------|----------|
| 佐々木 薫他編
第11章 治療集団の技法と実際例：
集団を用いた行動療法 | 『集団行動の心理学』
有斐閣 | 1986年 |
| 内山 喜久雄他編（竹内一夫と共著）
第13章 家族とのかかわり | 『看護心理学』
ナカニシヤ出版 | 1986年 |
| 内山 喜久雄他編（竹内一夫と共著）
第9章 家族のダイナミクス | 『新看護心理学』
ナカニシヤ出版 | 1989年 |
| 安香宏、小川捷之、空井健三編集
（中川千恵美と共著）
第2章 2 大学における不適応 | 『臨床心理大系』
金子書房 | 1992年 |
| 乾吉佑、飯長喜一郎、篠木満編
第6章福祉心理臨床家が育つために
—教育・養成の立場から | 『福祉心理臨床』
星和書店 | 1992年 |
| 第7章リーダーシップの条件 | 『教える技術 I』
日本実業出版社 | 1994年 3月 |

—スポーツ関係書—

- | | | |
|------------------------------------|---|-----------------------|
| 近代アメリカン・フットボール | 日本 YMCA 同盟出版 | 1972年 |
| アメリカン・フットボール入門 | タッチダウン社 | 1975年 |
| アメリカン・フットボールの技術
（浅見 俊雄他編） | 現代体育・スポーツ体系第25巻第2部第2章
講談社 | 1984年 |
| アメリカン・フットボール | 新潮社 | 1985年 |
| フットボールクレイジー I | タッチダウン社 | 1985年 |
| フットボールクレイジー II | タッチダウン社 | 1988年 |
| アメリカンフットボールの攻撃 | 『体育の科学』第44巻第7号
日本体育学会編集、杏林書院 | 1994年 7月 |
| 「こんな指導をしてみませんか
—コーチングの心理学 1～25」 | 『コーチング・クリニック』
第7巻12号～第9巻12号
ベースボールマガジン社 | 1993年12月～
1995年12月 |

—その他—

- | | | |
|--------------------|-------------------------------|----------|
| 「目標達成への意欲を支援する」 | 『商工につぼん』 #519
日本商工振興会 | 1992年 4月 |
| 「私学経営雑感」 | 『私学経営』 #277
私学経営研究会 | 1994年 1月 |
| 「スポーツ心理学」 | 『心理学がわかる』 AERA Mook 3
朝日新聞 | 1994年10月 |
| 「心の育ち方・育て方」 1 | 『こども未来』 第283号
こども未来財団 | 1995年 4月 |
| 「心の育ち方・育て方」 2 | 『こども未来』 第284号
こども未来財団 | 1995年 5月 |
| 「心の育ち方・育て方」 3 | 『こども未来』 第285号
こども未来財団 | 1995年 6月 |
| 「大学の戦後50年：終戦直後の留学」 | 『現代の高等教育』
民主教育協会 | 1995年12月 |
| 「私学だから、その特徴を生かそう」 | 『私学経営』 251号
私学経営研究会 | 1996年 1月 |
| 「コーチ雑感：組織を動かす」 | 『研修』 210号
兵庫県自治研修所 | 1997年 3月 |

- 「大学教員人事あれこれ」 文部省高等教育局学生課編『大学と学生』第394号 1998年1月
文部省
- 「21世紀に向けて私立大学を考える
—大学審議会の答申に思う」 『月報私学』vol. 14 1999年2月
日本私立学校振興・共済事業団

武田建教授記念号によせて

社会学部長 高坂健次

武田先生がご定年をお迎えになり退官されることになりました。万年青年の趣のあった先生でありましたので、いつのまにかそのようなお年になっていらっしゃることを、にわかには信ずることができませんでした。1982年に社会学部長に就任されてからは、その後、学長事務取扱、学長、理事長と切れ目なくトップの要職をこなしてこられました。本当にお疲れ様でしたと申し上げたいところですが、過去形で語ることはまだできません。教授としてはお辞めになったあとも、ひきつづき客員教員として大学院を担当していただきますし、理事長職は続くからです。どうか、ご健康でそのフットワークのよさをひきつづき学院の発展のため、社会学研究科のためにお骨折りいただきますようお願いいたします。

先生は、関西学院高等部をご卒業になったのち、関西学院短期大学英文科、さらに文学部社会事業学科をご卒業になりました。大学院（教育学専攻）をおえられたのち、トロント大学大学院で社会福祉をご専攻になりました。メリル・パーマー研究所で臨床心理インターン、さらにコーネル大学大学院で児童心理博士課程を、ミシガン州立大学大学院カウンセリング心理博士課程をおえられ、そこでPh.Dを取得されました。社会学部に専任講師としてご就任になったのは1962年、満30歳になられたばかりのことでした。

自分に対しても厳しく、「講義ノートを毎年新しくするのが苦しい」と当時の同僚に漏らしておられたのを私は記憶しています。後年、「失敗の経験こそ、福祉には必要」とおっしゃるようになるには、先生にして時間を要したというふうに受け取るべきなのでしょうか。

先生のご功績は5つの側面に分けることができます。一つは研究面。対人援助方法であるケースワーク、カウンセリング、コーチングの研究。とくに親子関係を通じた子どもの成長に焦点をあてた研究は、児童福祉論や人格達論にとって大きな示唆を提供すると評価されています。行動療法の研究と実践は、わが国において指導的な立場を占めておられます。第二は教育面。とくに実習に重きをおいたカリキュラムの構築と大学院生教育。ここにお届けする記念号の執筆者の多くは、先生の門下生でありますところからも、先生がじつに多くの優秀な門下生をお育てになっことがお分かりいただけます。第三は教育行政面。学部長、学長、理事長としての要職を歴任されたことについては冒頭に触れたとおりです。第四は社会活動面。教育関係では、日本私立大学連盟常務理事、文部省大学設置・学校法人審議会専門委員、文部省学校法人運営調査委員、文部省大学設置・学校法人審議会委員、大学審議会委員など。また福祉・文化関係では、兵庫県スポーツ振興審議会委員、神戸市福祉審議会委員、兵庫県私学振興協会評議員、ローランド財団理事、日本生命財団理事など。第五は国際交流面。学長として、海外の多くの諸大学と姉妹校提携をむすぶことにご尽力され、理事長として海外諸大学との友好関係促進に努力されました。

先生の精神遍歴を拝見しますと、学生・院生と教員、心理と福祉、学問とスポーツ、経

営と教学、大学と社会、一見相矛盾する二つの項を行きつ戻りつされている（まさしく、遍歴）ことに気がつきます。私たちにとりまして、「アメフトの建」と「武田理事長」の幾分異なるイメージがだぶります。その両義性こそは、先生の活力であり、エネルギーであったように思われます。

1999年度、社会学部のなかに社会福祉学科が誕生し、関学のアメフトは学生日本一になりました。先生にとりまして、それら二人の申し子の快挙はご退官にあたっての何よりの驍となったことでありましょう。